

アサリの回復

■冬越しをする生物

気温も下がり、干潟の生物は冬越しに入った。魚類は深みに移動したと思われ投網に入ってくる生物はなかった。転石の下ではケフサイソガニがじっとしているのが見られた(Fig. 1)。水中の藻の中にはユビナガスジエビやヨコエビ、ハゼの仲間が潜んでいた(Fig. 2. 3. 4)。七北田川の岸に生えるヨシも枯れ干潟はすっかり冬景色であるが、春にはまた多くの生物が姿を見せてくれることであろう。



Fig.1 転石下のケフサイソガニ



Fig.2 ヨコエビ



Fig.3 ハゼの仲間



Fig.4 ユビナガスジエビ



Fig.6 カワザンショウガイ

■貝類の回復

震災直後は数を大きく減らしたアサリであるが、現在は順調に回復している。Fig. 5はジョレンを1回曳くことで採集されたアサリである。9月にはカワザンショウガイも多数生息しているのが確認されており(Fig. 6. 7)貝類の数が回復してきている。今後フトヘタナリやウミニナも回復することを期待したい。



Fig. アサリ



Fig.7 多数のカワザンショウガイ